

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

平成 30 年 9 月 13 日 (木) 午後 5 時 31 分～午後 5 時 51 分 (9 階 904 会議室)

○出席委員(9名)

委員 長	石原洋三郎	副委員長	誉田 憲孝
委 員	佐々木 優	委 員	後藤 善次
委 員	斎藤 正臣	委 員	黒沢 仁
委 員	佐久間行夫	委 員	山岸 清
委 員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

「地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査」

- (1) 参考人招致意見開陳のまとめについて
- (2) 行政視察について
- (3) その他

午後 5 時 31 分 再 開

(石原洋三郎委員長) それでは、委員会を再開いたします。

統括会議のほうも一応先日開催されまして、今後の議会報告会の日程や報告時間等も決まっておりますので、多分各班長のほうからボックス等々でご連絡行くかと思っておりますので、事前打ち合わせとかご自身の班会議の日程をご確認しておいていただければと思います。

それでは、所管事務調査のほうについて進めさせていただきたいと思います。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりです。

初めに、参考人招致意見開陳のまとめを議題といたします。

前回の 8 月 29 日に株式会社 A C 福島ユナイテッド代表取締役、鈴木勇人氏にお越しいただき、クラブの地域貢献活動や活動理念、福島への思いなどを詳細にご説明いただいたように感じております。また、参考人招致終了後には委員の皆様よりさまざまな意見を頂戴いたしました。早速ですが、その

際の委員会のまとめをお手元の資料1、2、3により確認してまいりたいと思います。

まず、資料1をごらんください。こちらは、参考人招致時の質疑応答の内容が記載されております。詳細は後ほどお読み取りいただければと思いますが、質疑をまとめますと、スタジアムのナイター照明の問題やクラブのユースチーム未整備の問題、クラブの資金繰りの問題など、J2、J3のクラブライセンスの課題というものが再認識できましたが、それと同時に福島ユナイテッドFCといわきFCのクラブ経営方針の違いや理念の違い、地域貢献活動にクラブとしても積極的に関わっていきたいという思い、クラブとしても自分たちの市民への認知度や定着度がまだまだ足りないことが課題とされている点、ホームタウンについてのクラブとしての考えなどを質疑から明確にできたことは非常に大きな収穫であったと感じております。地域に根差したクラブを目指してさまざまな活動に取り組んでいることが質疑応答を通してより鮮明にできたかと思えます。

次に、資料2をごらんください。こちらは、最後に委員のみで行った意見開陳の内容をまとめたものでございます。上から順番で簡単に確認しますと、黒沢委員からは、今まで地域社会と一体化して協力してきたという話が十分に確認できた一方で、これから2022年を期限とした照明の問題などもあり、市としてもどのような支援ができるのか本気で考えていかなくてはならない。地域のために活動しているチームを今さらなくすわけにはいかないといったご意見、斎藤委員からは、アンダー18のチームをつくるにしても、これからJ3を維持、J2を目指すにしても、練習場の確保やホームスタジアムの確保が第一の条件であり、県を巻き込むなどしながら協議、検討する場を早急に設けていかなくてはならないといったご意見、山岸委員からは、県のスタジアムに照明をつける協議を県、市、クラブで三位一体になって協議、検討すべきというご意見をいただき、今確認した皆様からは、どちらかというクラブライセンス問題に触れた課題を整理いただきました。

一方、佐久間委員からは、ホームタウンという考え方を広げてもらうことが重要である。今は広域連携の時代。会津若松市も巻き込んで連携をとって、みんなで盛り上げていく機運をつくらなければならない。ホームタウン連合体のような協議体をつくって応援する機運を高めていかないと、福島市単独だけでは限界もあるということで、他市も巻き込んでホームタウン協議会を設立し、クラブを活用したさまざまな取り組みや意識の醸成を図ることの有効性についてご意見をいただきました。

また、佐々木委員からは、市民全体のクラブを応援しようという機運が足りない。広報や宣伝などまだまだ先に取り組まなければならないことも多い。市民とクラブとの関係を考えていかないといけない。どうやってクラブの認知度を上げていくかについて、行政と一緒に取り組んでいくことを抜きにしては先々のクラブの課題にまで進めないと思うということで、クラブの市民への認知度、定着度を上げていくことの重要性についてのご意見をいただきました。

また、後藤委員からは、選手たちが何か宣伝をすることで注目してもらおうということが大切。そのためには、ユナイテッドFCもサッカー選手であることと同時に福島の有名人という位置づけにならないとPR効果がない。照明の問題や後継者の問題など企業としての課題もたくさんあることがわか

ったが、こと行政としてクラブを利用する、応援するという立場で考えたときに、市としても積極的にいろんなイベントに出てもらうなどしながら、宣伝効果としてメリットのある人たちになってもらう機会をどんどんつくっていくことが必要というご意見をいただきました。

そして最後に、菅田副委員長からは、本市を盛り上げようという思いが非常に伝わった一方、知名度、有名度などの課題も見られた。ホームタウン協議会の立ち上げという話もあったが、例えば仙台などでは市長が会長となって、地域でどう盛り上げるかビジョン、方向性を示して支援、連携、活用を図っている事例もある。市としては、チームの温度というものに市民の温度をどう追いつかせていくかということが重要と思われる。そういった外の部分の支援が必要というご意見をいただき、今確認した4名の委員の皆様からは、行政としてクラブをどのように活用し、またそれと同時にどのような視点で支援していけばよいのかという具体的な方向性について整理いただいたと感じております。

これらを踏まえて今回の参考人招致の委員会としてのまとめに入っていきたいと思いますが、資料3の1ページをごらんください。今回参考人から質疑応答も含めて聴取した内容を簡単に整理したものでございます。(1)、福島ユナイテッドFCの活動理念ということで、枠線内をごらんいただければと思いますが、福島ユナイテッドFCは地域に必要とされるクラブを目指し活動を続けているということ、そして(2)、福島ユナイテッドFCの地域貢献活動ということで、地元農産物のPRや販売、地元イベントへの参加などにも取り組んでおり、枠線内をごらんいただきたいと思いますが、これまで福島のためにさまざまな活動を展開しており、クラブとしても行政にもっとクラブを活用してほしいという思いを持っているということ、次に(4)、福島ユナイテッドFCとの連携、活用可能性ということで、記載のさまざまな連携可能性を参考人からはお話しいただき、枠線内をごらんいただきたいと思いますが、改めて青少年育成、地域アイデンティティーの醸成、観光、産業振興、広域連携によるぎわいの創出など、さまざまな場面で本市の活性化につながる大きな可能性があるという大きく3点がまずは理解できたのではないかと思います。

これらのポイントから、資料3の2ページ目の一番上の枠内をごらんください。鈴木勇人氏の参考人招致からわかったことは、福島ユナイテッドFCというチームはスポーツだけにとどまらず、さまざまな面から本市に活性化をもたらす可能性のある、高い公益性を持った、活用すべき地域の重要な資源であるということで、今回の調査でまずはクラブの価値というものが一定程度認識できたということでまとめてはどうかと考えております。

その上で、資料3の2ページ、下段のただしのところでございますが、やはり当局説明と同様、クラブの認知度の低さ、市民の応援する機運の未成熟といった根本的な課題が確認されましたので、今後の調査の方向性としては、意見開陳でも佐久間委員はじめ4名の委員の皆さんから整理いただいた視点に基づき、①、福島ユナイテッドFCを市民にとってさらに大きく光り輝く資源へと成長させる取り組み、市民から応援されるクラブになるための支援ということと、②、地域資源を積極的に地域の活性化などのさまざまな事業に活用していく取り組み、福島ユナイテッドFCを地域活性化のため

にクラブを活用していくという考え方、以上2点を中心にしながら、行政として今後どのようにクラブとかかわっていくことができるのか検討を進めていきたいと考えております。

しかし、資料3の一番下ですが、一方でほかの委員の皆さんからは、ここに記載のスタジアムの照明問題、ホームスタジアムや練習場の確保の問題、ユースチームの問題も明確にさせていただきました。これらの問題は、企業としての経営の課題という色合いが強い部分もございますが、クラブライセンスという面からは非常に重要な課題であり、今後のクラブの存続には課題解決が避けては通れない問題ということで整理できたかと思っておりますので、今後さまざまな関係団体と早急に議論する必要があるということを委員会としても忘れず押さえておきたいと考えております。

以上のような形で今回の参考人招致をまとめたいと思いますが、いかがでありますでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(石原洋三郎委員長) 大筋記載のような形で問題なければ、このように進めてまいりたいと思います。

次に、行政視察についてを議題といたします。

前回の委員会で正副委員長より6案ほど提案させていただき、選定については正副委員長一任でご了承いただきましたが、追加で佐久間委員よりお話のありました町田市も、お手元の資料に基づき、候補地の一つとして加えさせていただいた中で進めてまいりたいと思いますが、いかがでありますでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(石原洋三郎委員長) 大丈夫であれば、7つの案から選定をさせていただきたいと思います。

視察については、調整がつき次第皆様にご報告させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

最後に、そのほかに移ります。

まずは、委員会の10月の日程であります。まだ皆様と協議しておりませんでしたので、ここで2日間ほど確保させていただければと思います。

10月2日間ほど確保したいと思いますが、10月1日から3日は議運の視察がありまして、4日から7日は市民21の視察があります。9日から11日は共産党さんが視察ありますので、12日以降に自動的になってくるかと思えます。

(渡辺敏彦委員) 12日だね。

(後藤善次委員) 15の日にしましょう。

(山岸 清委員) 12日。

(石原洋三郎委員長) 15は4市の全体会があるのですけれども。17日には福島体育館の内覧会が10時からありますので。

(渡辺敏彦委員) 全部呼ばれるのか、あれ。

(石原洋三郎委員長) 全員呼ばれるとかという話ですね。内覧会が10時からですので。

(黒沢 仁委員) 終わってからいいな。

(石原洋三郎委員長) 午後になるのですかね。

(佐久間行夫委員) 17ね。

(石原洋三郎委員長) まず、1日は10月17日の午後1時からということで。あと1日は……真政会さんは22から24が視察入ってきますので、25か、26は私予定入っていますので。

(黒沢 仁委員) 28日ユナイテッドF Cの試合見に行くのではないか。

(佐久間行夫委員) これみんなで行くのでしょうか。

(後藤善次委員) 欠席です、私。

(斎藤正臣委員) 俺も欠席です。

(佐久間行夫委員) 有志だけか。

(山岸 清委員) どっちだい。24、25。

(斎藤正臣委員) 29、30俺海外にいます。

(石原洋三郎委員長) 斎藤さんが27日以降いないので。12日はご都合どうでしょうか。どなたかご都合悪い方いらっしゃいますか。10月12日金曜日。

(佐久間行夫委員) 午前中だな。午前中だよ。私は何ぼでも早くてもいい。9時でも。

(石原洋三郎委員長) では、12日9時からですか。10月12日金曜日の9時からと、あと10月17日の午後ということで押さえておいていただければ。

(山岸 清委員) 17日は何曜日。

(石原洋三郎委員長) 水曜日です。

次に、10月28日の福島ユナイテッドF Cの試合会場の視察の件ですが、改めて皆様に参加、不参加の確認をしたいと思いますが、いかがでしょうか。これは有志ということなのですが、斎藤委員は不参加という。

(斎藤正臣委員) 私は不参加です。11月のあの試合に行きますから、私は。

(佐々木優委員) 私も28だめです。

(山岸 清委員) 佐々木さん行かないなら行きません。

(石原洋三郎委員長) 今のところ行ける方……。

(佐久間行夫委員) 今のところは行けるけれども、わからないよ。

(石原洋三郎委員長) では、行けない方は佐々木さんと斎藤さん、お二人。

(後藤善次委員) 私もやっぱり欠席で。

(石原洋三郎委員長) 後藤さんも。

(後藤善次委員) その後行きます。

(山岸 清委員) これ何時から。

(石原洋三郎委員長) 試合は1時からです。当日は委員会の有志で行くということです。ただ、その

後の所管事務調査の委員長報告とかには反映できるような形で、やはり意見とかは言っていて、それは問題ないかなと。

(佐久間行夫委員) 委員会として行くの。

(石原洋三郎委員長) 委員会の有志です。ただ、鈴木社長が、事前にはうちら行きますからと言っておくことにはなりますので。

(菅田憲孝委員) それなりに案内してくれる可能性もあるので、極力行っていただければ非常にありがたいですよ。

(斎藤正臣委員) それは9月28の話ですよ。

(石原洋三郎委員長) 10月28。

(斎藤正臣委員) ごめんなさい。10月28の話ね。

(黒沢 仁委員) 行く方向で。

(佐久間行夫委員) なるべく行ってほしいのだ、みんな。

(後藤善次委員) あともう一回だか二回あるよね。

(石原洋三郎委員長) 試合開始が13時からで、大体11時30分集合ということで考えております。ほかになければ、以上で経済民生常任委員会を終了といたします。ありがとうございました。

午後5時51分 散 会

経済民生常任委員長 石原 洋三郎